

ハイデオ® サービスチップス



株式会社ゲン・コーポレーション ハイデオ事業カンパニー

〒501-1132 岐阜市折立 296-1 Tel(058)234-0666 Fax(058)234-1130

e-mail:hy-deo@ghen.co.jp http://www.ghen.co.jp

No. 94

平成 22 年 2 月 8 日

コマーシャル鶏飼養管理ガイド ジュリア 改訂

—ジュリアの性能をひきだすための新指標—

『コマーシャル鶏飼養管理ガイド ジュリア』の改訂版（第 8 版）を発行いたしました。旧版の同飼養管理ガイド（第 7 版）は、平成 16 年 1 月に発行以来 6 年が経過いたしました。この間にジュリアの育種改良が進み、野外成績は、生産能力指標を大きく上回る実績を示すようになりました。

このたび、育種会社の最新情報および日本の野外成績のデータをもとに飼養管理指標を改訂しました。ジュリアの性能を引き出すための指標として、また、売れる卵をより多く生産するための飼養管理指標としてお役立て下さい。

主な改訂ポイントは、産卵成績に関連する以下の 2 点です。育成期、成鶏期の体重は旧版と同じで変わっておりません。詳細については、『コマーシャル鶏飼養管理ガイド ジュリア（第 8 版）』をご覧ください。

1. 産卵能力指標：(図-1) 参照

ヘンデー産卵率： 産卵後期まで高産卵を持続。

ヘンハウス産卵個数：80 週令時までのヘンハウス産卵個数の累計が、6 個増加。

平均卵重： 産卵初期（19～22 週令）の平均卵重が従来より大きく。

2. 飼料・栄養：(表 1-1) ～ (表 2-4) 参照

育成期間：① 主な栄養素、ビタミンおよびミネラルの飼料添加量を見直し。

② 主要アミノ酸・最低量にバリン、イソロイシンの値を追記。

③ プリレイヤー飼料の給餌について、成鶏舎へ移動後の成鶏用飼料に切り替えるまでの飼料給与プログラム例を追記。

成鶏期間：① 蛋白質および主要アミノ酸の最低要求量、ミネラル要求量（特に産卵中期、後期のカルシウム増加）、ビタミンおよび微量ミネラルの飼料添加量を見直し。

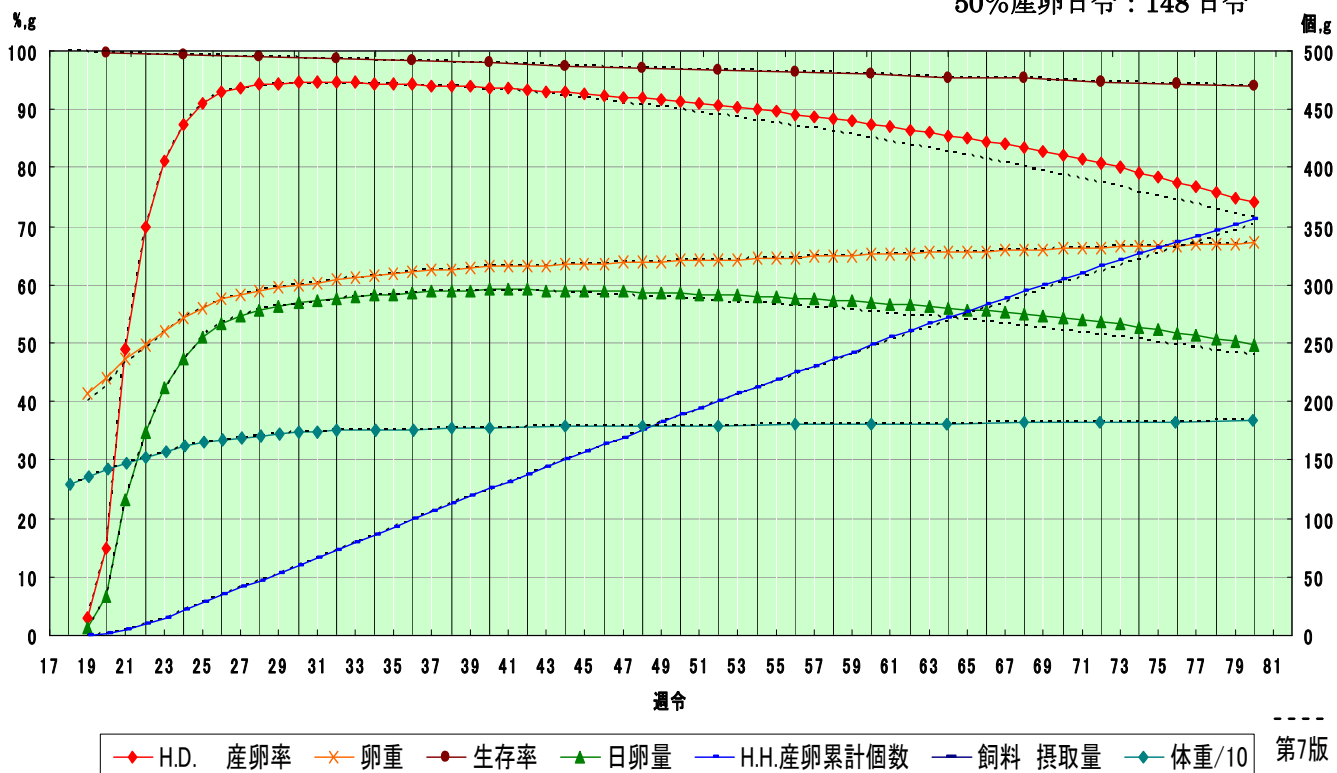
② 蛋白質および主要アミノ酸の最低要求量の表にリノール酸、アルギニン、バリン、スレオニン、イソロイシンの値を追記。

③ 飼料中の石灰石（主成分は炭酸カルシウム）等の粒度割合について追記。

(図-1)

ジュリア 第8版 産卵能力指標

50%産卵日令：148日令



《ジュリア鶏の性能を引き出すための新指標（育成期間の飼料）》

(表 1-1) 育成期間の主な栄養素 赤字が改訂または追記部分

栄養素	幼すう用飼料	中すう用飼料	大すう用飼料	プリレイヤー
	体重が 190g になるまで、または、3 週令まで	体重が 650g になるまで、または、8 週令まで	体重が 1,190g になるまで、または 16 週令まで	17 週令以降 5%産卵になるまで
粗蛋白質 (最低) (%)	20.0	18.5	14.5	17.5
代謝エネルギー (kcal/kg)	2,900	2,750~2,800	2,750~2,800	2,750~2,800
リノール酸 (最低) (%)	2.00	1.40	1.00	1.00
(主要アミノ酸:最低量)				
メチオニン (%)	0.48	0.40	0.34	0.36
メチオン+シスチン (%)	0.83	0.70	0.60	0.68
リジン (%)	1.20	1.00	0.65	0.85
バリン (%)	0.89	0.75	0.53	0.64
トリプトファン (%)	0.23	0.21	0.16	0.20
スレオニン (%)	0.80	0.70	0.50	0.60
イソロイシン (%)	0.83	0.75	0.60	0.74
(主要ミネラル:最低量)				
カルシウム (%)	1.05	1.00	0.90	2.00
全リン (%)	0.75	0.70	0.58	0.65
有効リン (%)	0.48	0.45	0.37	0.45
ナトリウム (%)	0.18	0.17	0.16	0.16
塩素 (%)	0.20	0.19	0.16	0.16

- (注)
1. 代謝エネルギーをこれより増やせば、それぞれの数値をその分だけ増やす必要がある。
 2. 17 週令以降 5%産卵になるまでプリレイヤーの飼料を給与することが勧められる。
 3. プリレイ飼料の給与期間は 10 日間前後で給与量の合計は最大 1 羽当たり 1kg まで。
 4. プリレイ飼料の給与は、週令が早すぎないように注意。

(表 1-2) 育成期間のビタミンおよびミネラルの飼料添加量

栄 養 素	育 成 期 間	栄 養 素	育 成 期 間
(ビタミン)		(微量ミネラル)	
ビ タ ミ ン A	12,000,000 IU/トン	マ ン ガ ン	100 g/トン
ビ タ ミ ン D ₃	2,000,000 IU/トン	亜 鉛	60 g/トン
ビ タ ミ ン E	20~30* g/トン	鉄	25 g/トン
ビ タ ミ ン K ₃	3** g/トン	銅	5 g/トン
チ ア ミ ン(B ₁)	1 g/トン	コ バ ル ト	0.1 g/トン
リ ボ フ ラ ビ ン(B ₂)	6 g/トン	ヨ ウ 素	0.5 g/トン
ピ リ ド キ シ ン(B ₆)	3 g/トン	セ レ ン	0.2 g/トン
パ ン ト テ ン 酸	8 g/トン		
ナ イ ア シ ン	30 g/トン		
コ リ ン	300 g/トン		
葉 酸	1.0 g/トン		
ビ タ ミ ン B ₁₂	15 mg/トン		
ビ オ チ ン	50 mg/トン		

(注 1) 飼料原料中に含まれる量以外にビタミン・ミネラル・プレミックスとして飼料に添加すべき必要量である。
(注 2) プリレイヤーについては、成鶏用を参照。

* 油脂添加量に合わせる
** 加熱処理する飼料では 2 倍量必要

《ジュリア鶏の性能を引き出すための新指標（成鶏期間の飼料）》

(表 2-1) 蛋白質および主要アミノ酸の最低要求量 (g/羽/日)

産卵期間 栄養素	産卵前期 (19~45週令)	産卵中期 (46~65週令)	産卵後期 (65週令以降)
代謝エネルギー(kcal/kg)	2,750~2,800	2,750~2,800	2,750~2,800
リ ノ ー ル 酸	2.20 g	1.60 g	1.30 g
粗 蛋 白 質 ※	19.0 g	17.8 g	17.5 g
メ チ オ ニ ン	0.44 g	0.42 g	0.40 g
メ チ オ ニ ン + シ ス チ ン	0.80 g	0.77 g	0.73 g
リ ジ ン	0.87 g	0.83 g	0.79 g
ア ル ギ ニ ン	0.91 g	0.88 g	0.83 g
バ リ ン	0.74 g	0.71 g	0.67 g
ト リ プ ト フ ェ ン	0.18 g	0.18 g	0.17 g
ス レ オ ニ ン	0.61 g	0.59 g	0.55 g
イ ソ ロ イ シ ン	0.70 g	0.67 g	0.63 g

- (注) 1. ここに示した量は 1 日 1 羽当りの摂取必要量であって、その時の飼料摂取量によって飼料中に配合されるべき割合(%)は異なる。
2. 産卵期間は、一つの目安として週令で分けたが、その時の産卵量によって前期と中期、中期と後期の区切りを若干ずらす必要がある。
3. ※粗蛋白質は、卵重を大きくするためにメチオニン（メチオニン+シスチン）および代謝エネルギーと共に増加することは可能である。

(表 2-2) 成鶏期間の飼料

ミネラル要求量：最低要求量 (g/羽/日)

産卵期間 栄養素	産卵前期 (19~45週令)	産卵中期 (46~65週令)	産卵後期 (65週令以降)
カルシウム	4.10 g	4.40 g	4.50 g
全リン	0.60 g	0.58 g	0.55 g
有効リン	0.42 g	0.40 g	0.38 g
ナトリウム	0.18g	0.17 g	0.16 g
塩素	0.18 g	0.17 g	0.16 g

(表 2-3) 飼料中の石灰石（主成分は炭酸カルシウム）等の粒度割合

産卵期間	微細粒石灰石*1	粗目石灰石*2
産卵前期飼料(19~45週令)	30 %	70 %
産卵中期飼料(46~65週令)	25 %	75 %
産卵後期飼料(65週令以降)	15 %	85 %

*1 粒度は0~0.5mmサイズ。

*2 粒度は2~3mmサイズ。部分的にカキガラと置き換えることができる。

(表 2-4) 成鶏期間の飼料

ビタミンおよび微量ミネラルの飼料添加量

栄養素	産卵全期間 (19週以降)	栄養素	産卵全期間 (19週以降)
(ビタミン)		(微量ミネラル)	
ビタミン A	10,000,000 IU/トン	マンガン	100 g/トン
ビタミン D ₃	2,500,000 IU/トン	亜鉛	60 g/トン
ビタミン E	15~30* g/トン	鉄	25 g/トン
ビタミン K ₃	3** g/トン	銅	5 g/トン
チアミン(B ₁)	1 g/トン	コバルト	0.1 g/トン
リボフラビン(B ₂)	4 g/トン	ヨウ素	0.5 g/トン
ピリドキシン(B ₆)	3 g/トン	セレン	0.2 g/トン
パントテン酸	8 g/トン		
ナイアシン	30 g/トン		
コリン	400 g/トン		
葉酸	0.5 g/トン		
ビタミン B ₁₂	15 mg/トン		
ビオチン	25 mg/トン		

* 油脂添加量に合わせる

** 加熱処理する飼料では2倍量必要

(注) これらの数値は1日1羽当り飼料摂取量が100gの時の、飼料原料中に含まれる量以外にビタミン・ミネラル・プレミックスとして飼料に添加すべき通常の必要量である。したがって、鶏の採食量が例えば1日1羽当り90gになった場合には、ここに示す量の10%増とし、110gの場合には10%減とする。ただし、鶏になんらかのストレスが加わった場合にはこれより多く必要である。

※ ご不明の点あるいはお気付きの点がございましたら、弊社ハイデオ事業カンパニー技術情報部までお問い合わせ下さい。